

共生・協働のむらづくり通信

第5号

～人と自然と地域が支え合う みんなで創る農村社会～



共生・協働の^{むら}農村づくり運動



鹿児島県農政部農村振興課

鹿児島県共生・協働の^{むら}農村づくり運動推進協議会

久富木区公民館が平成23年度（第50回）農林水産祭 むらづくり部門で「日本農林漁業振興会会長賞」を受賞

平成23年度（第50回）農林水産祭（主催：農林水産省、財団法人日本農林漁業振興会）のむらづくり部門において、さつま町の久富木区公民館が「日本農林漁業振興会会長賞」を受賞しました。

「山・川・緑に人の愛」を合言葉とした自然と人との絆によるむらづくりの取組が全国で評価されました。



農林水産祭表彰式（11月23日 於：東京明治神宮会館）



久富木区公民館役員のみなさん



おはなが一番久富木大賞

地区の様々な
1番を表彰



久富木区新聞



都市住民と田舎体験
を通じて交流

久富木ぴんコロ村一宿一飯活動
（タケノコ掘り体験）



集落ぐるみで桜の植栽



地区の高齢者がつくった
別格の品物を販売

地区内外の寄付により
千本の桜を植樹

毎月住民全戸に配布
地区の身近な話題を
共有しています。



久富木区運営べっぴん市場

集落・世帯数等	5集落, 303戸
農 家 戸 数	121戸
農 地 面 積	148ha(田92,畑41,樹園地15)
主 な 農 産 物	水稻, タケノコ, 肉用牛等

平成22年度 共生・協働のむらづくり表彰地区紹介

県では、「共生・協働の^{むら}農村づくり運動」の全県的な取組を推進するため、地域の自主的な話し合いを基本に、実践活動を行っている地区を表彰し、広く県民に紹介しています。

平成22年度は、指宿市上野地区と西之表市現和地区が受賞しました。



上野（うえの）地区村づくり推進委員会（指宿市）

上野地区では、昭和40年に、地区を襲った大火災で多くの住居を焼失し、住民同士が身を寄せ合って生活した経験をきっかけに、地域環境の保全や伝統芸能の保存等に住民一体となって取り組んでいます。



地区むらづくり大会

昭和55年から毎年開催するむらづくり大会は、地区出身者へも呼びかけをお願いしています。

司会の上手な人や牛の削蹄ができる人など地区の名人・達人を掘り起こし、「師匠(ししよ)どんマップ」として公民館等に掲示しています。



上野の師匠どんマップ

師匠(ししよ)どん達は、地域の様々な場面でその技能を発揮し、むらづくり活動に貢献しています。



伝統芸能猿の子踊り

平成の大合併で、市町境がなくなったのを契機に、近隣地区との交流を進めています。池田地区とは、同じ伝統芸能「猿の子踊り」をお互いに披露しています。

水土里サークル活動に取り組み、遊休農地等の発生状況の把握や彼岸花の植栽による景観形成も行っています。



花の寄せ植え実技



水路の草払い活動

集落・世帯数等	4集落、184戸
農家戸数	104戸
農地面積	124ha (田14, 畑110)
主な農産物	ワサミ, かわ, キャベツ等

現和（げんな）地区むらづくり推進委員会（西之表市）

現和地区では、若者の島外流出による過疎・高齢化や平成21年度の中学校閉校等の状況の中、女性や若者などの地域の人材を大切にし、また、NPO法人等と連携したむらづくり活動に取り組んでいます。



女性有志グループによる加工品の販売活動

地域おこしを支援するNPO法人と連携し、市街地に直売所「現和物産館」を出店し、高齢・兼業農家がつくる農産物等を販売しています。



現和物産館

女性有志グループをむらづくり委員会で支援し、ドレッシング等加工品開発や販売など地区内の六次産業化に取り組んでいます。



土づくり講習会

遊休農地を活用して、地区の活動資金を捻出しています。さつまいもや大根などを生産・販売し、収益を伸ばしています。

集落毎に残る郷土芸能



風元地区の秋季大祭では、伝統芸能が集落毎に披露され、それぞれ継承活動が行われています。



住民協働による環境整備

直売所へさらに高品質な農産物を生産するため、外部講師による土づくり講習会を行っています。

集落・世帯数等	9集落, 694戸
農家戸数	349戸
農地面積	560ha (田109, 畑451)
主な農産物	サトウ芋, カブ, パセリ等

これまでの受賞団体～むらづくり部門～

年度	受賞地区名	市町村名
平成19年度	新城（しんじょう）地区	垂水市
	倉野（くらの）地区	薩摩川内市
	中谷（なかたに）地区	曾於市
平成20年度	大馬越（おおまごえ）地区	薩摩川内市
	住吉（すみよし）地区	始良市
平成21年度	鶴木（つるぎ）地区	曾於市
	永野（ながの）区	さつま町
平成22年度	上野（うえの）地区	指宿市
	現和（げんな）地区	西之表市

共生・協働のむらづくり活動情報

～ 平成23年度 取組紹介 ～

火山を生かした体験型観光(鹿児島市桜島地区)

桜島地区では、NPO法人と連携して、体験型のグリーン・ツーリズムに取り組み、観光客や修学旅行生に火山の麓ならではの活動や島民との触れあいを楽しんでもらっています。

「本物」を体験する最良の方法は、桜島大根を栽培している農家と一緒に収穫体験をしたり、溶岩加工工場の方と一緒に溶岩でピザ釜をつくって、ピザを焼いて食べるなど、地元住民を「先生」に指導してもらうことです。

平成22年は、東京や大阪など県外の中・高の修学旅行生が6校訪れ、うち1校を農家民泊で受け入れるなど、新たな取組も始まりました。地域の人々も、子ども達との交流で元気をもらっていると喜んでいきます。

今後も、地域を元気にするプロジェクトとして、地元住民による体験プログラムや教育旅行の受入体制の充実などに取り組みたいとしています。



溶岩ピザ釜作りに取り組む修学旅行生

集落で一致団結する茶農家(南九州市菊永集落)



集落の茶農家が集った栽培講習会

南九州市知覧の菊永集落は、茶農家が施肥・病害虫防除の統一、茶工場の計画操業などを目指し、昭和47年から「菊永茶生産組合」として法人経営に取り組んでいます。

現在37戸で、設立時約30haだった茶園面積は5倍になり、100haを超える集団茶園も形成され、栽培・摘採・加工などの5つの専門部門制の下、全てを共同作業にすることで、低コスト化を実現しています。

また、JGAP（生産者団体が活用する農場管理基準）やISO9001（品質マネジメントシステムの国際規格）の認証を取得するなど安心・安全なお茶づくりも手掛けています。

このように集落ぐるみで企業的経営を進める一方で、昭和初期から集落の男性に受け継がれる郷土料理「にわといずし」も作り続けています。今後も、伝統を大切にしながら、時代に応じた茶業経営に取り組むたいと意欲的です。

畜産を核としたグリーン・ツーリズム(出水市上場地区)

出水市の上場地区は、昭和30年代後半に酪農が導入され、今では市内屈指の畜産地帯に発展しています。

昨年10月には、むらづくりの一環として、「第28回バーベキューin上場高原」を開催しました。

肉の消費拡大や消費者との交流を図ろうと、約30年前に始められたこのイベントは、地元の企業、高校、大学等の協力や多くの消費者の参加もあり、満開のコスモスと秋の出水を満喫する恒例行事として定着しています。

職場や家族ぐるみの常連客も多く、綱引き大会や大声大会、抽選等の催しを地区民も一緒に楽しんでいます。

また、昨年は県外の修学旅行生を約130名受け入れ、茶摘みや牛の世話などの農業体験と農家民泊を盛り込んだグリーン・ツーリズムにも取り組んでいます。

今後、活発な交流活動を中心としたむらづくりが期待されます。



多くの参加で賑わうバーベキューin上場高原

こやまだ

大豆生産による地域活性化(始良市小山田地区)

始良市加治木町の小山田地区むらづくり委員会は、地産地消と食育による活性化に取り組んでいます。

平成8年、「まずはできることから」をモットーに、高齢者や女性でも栽培しやすい大豆生産を始めました。

特産品開発を目的に、女性起業グループ「さくらの会」も結成され、地元産大豆を豆腐・味噌等に加工し、販売しています。

豆腐は、約10年前から旧加治木町内の幼稚園・小・中学校の給食にも提供し、好評であることから、徐々に生産拡大が図られています。

また、小山田営農受託組合では、高齢農家等の水稲収穫作業などを請け負うほか、児童の農作業体験の指導もしています。

昨年は、東日本大震災の被災者を応援するため、近隣地域と協力して支援米の生産に取り組み、11月中旬に発送しました。

地区では、今後とも、子どもから女性・高齢者まで多くの住民が参加したむらづくりを展開していきたいと考えています。



地元小学校の児童も協力した支援米の収穫

おおあいら

地域ネットワークを広げて交流増(鹿屋市大始良地区)



毎月200人程の買い物客で賑わう青空市

鹿屋市大始良地区は、混住化が進んで地域の連帯が薄れつつある中、地域ネットワークの充実強化に取り組んでいます。

6つの町内会で構成される同地区は、それぞれの町内会ごとに活動を行ってききましたが、人材不足や資金繰り等、1町内会単位の活動では発展的な取組に限界がありました。

このため6つの町内会は、地元有志の異業種団体「大始良経済文化同友クラブ」と連携し、平成21年6月、「大始良地区共生・協働むらづくり委員会」を設立しました。

「よろって すいが(みんなで集まってやろう)」をキャッチフレーズに、毎月1回の青空市や、青空市への出品を目指した栽培研修会を催すほか、自主財源確保のため遊休農地を活用したもち米栽培に取り組むなど活動の幅を広げています。

今後は、学校や福祉施設などとも連携の輪を広げ、様々な世代が交流し、生きがいを感じるむらづくりを進めようとしています。

なかたに

住民が一丸となって災害復旧(曾於市中谷地区)

曾於市財部町の中谷地区は、宮崎県境にある山林に囲まれた水田地帯で、人口400人ほどの地区です。

小学生による奴(やっこ)おどり継承、田植え等の農作業体験、イカダ川下り等の自然体験のほか、帰省家族も参加する夏祭り、約千人の見物客で賑わう豊作祭りの開催などに取り組んでいます。

このように熱心なむらづくり活動が高い評価を受け、これまで知事賞や農林水産大臣賞を受賞しています。

平成22年7月、地区を記録的な豪雨が襲い、一夜にして多くの農地や道路が泥や流木等で埋め尽くされる大きなダメージを受けました。

しかし、地区の団結の強さは災害にも負けず、「中谷地区むらづくり委員会」を中心に、用水路の整備や彼岸花の植栽を行うなど住民一丸となって復興に取り組み、ほぼ元通りとなりました。

義援金など地区外からの温かい支援もあり、同年12月には豊作祭り、翌年8月には夏祭りを例年通り開催できました。

美しい緑と水に恵まれた中谷地区のこれからのむらおこしが注目されています。



帰省家族などで賑わう夏祭り

地域資源を活用した都市農村交流(中種子町)

中種子町では、豊富な農林水産業の地域資源を活用し、都市農村交流を推進しています。

平成21年6月には、農家や漁家からなる「中種子町グリーン・ツーリズム推進協議会」を設立した。設立当初、25人だった会員は、45名に増え、田植え・稲刈りの定番メニューのほか、種子島ならではの安納芋の収穫や黒糖作りなども年間を通じて体験できます。

平成22年は、東京都内の高校の修学旅行や鹿児島市の小学校のキャンプでの農業体験を受け入れました。学校側から、「子ども達に普段経験できないことを体験させることができた」、「種子島の自然を感じる貴重な機会であり、また来たい」等の声が聞かれ、受入側の機運が高まっています。

今後、観光業界と連携し、体験メニューの充実や農林漁業を体験できる教育旅行の誘致などを進める予定で、地元の魅力を生かした地域づくりが期待されます。



黒糖づくりに取り組む修学旅行生

「軽トラ市」で世代間交流(屋久島町尾之間集落)

おのあいだ



活性化の起爆剤に初企画された軽トラ市

屋久島町尾之間集落では、尾之間村づくり委員会を中心に、世代を超えて楽しく参加できるむらづくりに取り組んでおり、新たな取組として、昨年夏、初めて「軽トラ市」を開きました。

軽トラ10台の荷台には、ナスやキュウリ、パッションフルーツ、マンゴーなど新鮮な地元農産物や、手作りの草木染、流木アートなどの工芸品71点の商品が並べられました。

当日は、島内全域から約300人の買い物客で賑わい、大変好評だったため、今後も定期的な開催を計画しています。

将来は、むらづくりの運営を若い世代に引き継ぎ、季節ごとに開く軽トラ市や、集落内の温泉などを活用した観光客との交流を進め、地域活性化につなげていきたいと、集落の魅力を生かしたむらづくりに夢が膨らんでいます。

農家に代わり出荷「市場代行便」の運行開始(大和村)



好評な市場代行便による集荷作業

大和村は、平成22年4月から、高齢・小規模農家のための「市場代行便」を始めました。

村内の公民館に農産物を持ち込めば、スタッフが奄美市名瀬の地方卸売市場に届け、その日の競りにかけるという仕組みです。キャッチフレーズの「キャベツ1個からでもお預かりします。」が功を奏し、利用者は高齢農家を中心に当初の10戸から49戸にまで拡大し、中には、生産量や品目を増やす農家も出てきました。

これまで出荷を諦めていた高齢農家等も、「車の運転ができなくても市場まで出荷できる。」「出荷量が少なくても、往復の燃料代が必要ないため採算が取れる。」と意欲的になっています。

また、品目を増やしたい農家向けに、野菜の栽培研修会を始めた集落もあり、平成22年10月の奄美豪雨災害にもめげないような農産物づくりへの機運が高まっています。

村は、この活動が遊休農地の解消や地域活性化につながることを期待しています。

グリーン・ツーリズムが盛り上がっています！

ここ数年、県内でグリーン・ツーリズムに取り組む地域・団体が増えています。また、都市部からの交流人口も増加傾向にあり、特に、修学旅行の受入は、平成23年には1万人を超えました。

豊かな農村地域の自然、文化、人々とのふれあいなど、農林漁業・農村生活の体験を通して、余暇活動を楽しむグリーン・ツーリズムの取り組みは地域活性化のひとつとして、ますます期待されています。



九州グリーン・ツーリズムシンポジウム 2011in鹿児島が開催されました。

平成23年11月4、5日に、さつま町、出水市、薩摩川内市、伊佐市で、九州のグリーン・ツーリズムの発展を目的としたシンポジウムが開催されました。

九州各地から532名が参加し、民泊型教育旅行コーディネートの方法や若きグリーン・ツーリズム実践者たちのユニークな取り組みが紹介され、活発な意見が交わされました。



改めて、九州のグリーン・ツーリズムの盛り上がりを実感した2日間でした。

地域の受入態勢充実に向けた研修会等を実施しています。

県では、かごしまグリーン・ツーリズム協議会と連携し、地域のグリーン・ツーリズム受入態勢を充実させるため、安全管理対策研修



会や農林漁業体験民宿開業予定者を対象とした関係法令等の研修会等、各種研修会を開催する等、地域のグリーン・ツーリズム受入態勢を充実させるための取り組みを行っています。



むらづくりに関する情報提供・相談窓口

県では、農村集落が主体となって取り組む活動等の情報を本誌や新聞、ホームページ等で紹介しています。あなたの地域のむらづくり活動情報の提供など共生・協働のむらづくりに関することは、最寄りの市町村役場または各地域振興局・支庁農政普及課へお問い合わせください。

共生・協働のむらづくり通信 第5号（平成24年3月発行）

編集・発行：鹿児島県農政部農村振興課

〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1

TEL:099-286-2111(内線3109)

鹿児島県ホームページ(むらづくり, グリーン・ツーリズム)

<http://www.pref.kagoshima.jp/sangyo-rodo/nogyo/noson/mura/index.html>